

(事前C)

総合評価

研究課題名：気候変動への適応策に資するための気候・環境変化予測に関する研究
評議委員会

委員長：田中正之

委員：岩崎俊樹、蒲生俊敬、川辺正樹、木村富士男、小泉尚嗣、泊次郎、中島
映至、藤吉康志、渡辺秀文

評価年月日：平成21年9月18日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 ☒ 可 ☐ 否
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

気候変動分野において気象庁・気象研究所の役割はますます重要になってきており、その責務を十分認識の上、本研究を是非とも実施していただきたい。気象庁以外の研究プロジェクトの成果も取り込む計画としている点を特に評価する。本研究は気象庁の業務改善のみならず、我が国の気象学の発展に波及し得るものであり、実施に際しては他の研究機関との密接かつ有機的な連携を図っていただきたい。

近未来の気候予測計算を精度良く行うためには、観測データに基づき計算の初期値を如何に適切に作成できるかが特に重要となる。気候予測に影響が特に大きい海洋データの取り込みについて本研究で意欲的に取り組むとともに、他の観測データに関しても他機関の研究成果なども含めて広く予測モデルの設計・改良に活かしていただきたい。本研究の特徴である初期値アンサンブルについて、その実施メンバー数については十分な成果が得られるよう可能な限り多く実施すべきである。

予測モデルに導入する物理過程部分の改良については、予測モデルに与える影響が広範囲と考えられることから、確実に成果をあげるためには、より具体的な計画を立てる必要がある。物理過程部分の改良に関する他の研究成果の進捗なども踏まえ、本研究計画では適切な目標設定の上で、最新の成果の積極的な導入を心がけていただきたい。